



夢はパワーになる

秋田大学教育文化学部附属中学校 1年 平尾 織花

「アナタノ夢ハ、何デスカ？」

私は、この言葉を大きな希望だと思う。

この研修で、日本語教室を訪問し、モンゴル人との交流を深めた。現地の子供たちは、すごく明るくて一緒にいるだけで楽しい時間を過ごせた。全くモンゴル語がわからない私に、「コンニチハ」と優しく声をかけてくれたのが本当にうれしく、今も鮮明に覚えている。そのように、たくさんの子供たちとふれ合っていく中で、共通していた質問があった。「アナタノ夢は、何デスカ？」その時私は、みんなの目が輝いていて、自分の夢に向かって一歩一歩進んでいることに気付いた。そして、小学生の頃から確実に自分の夢があることに、とても驚いた。私が低学年の頃は、ケーキ屋さんやお花屋さんのような女の子らしくて楽しそうな職業を夢見ていた。しかし、現地の子供達の夢は、お医者さんになりたいという子もいれば、教師や画家になりたいという人もいた。私はすばらしい事だと思った。

研修期間、文化の違いに驚きとまどってしまった事もあったが、色々な人に出会い、たくさんの事を学んだ。一生懸命に日本語を話そうとしてくれたこと。いつも優しく接してくれたこと。これは、私の大切な宝物になった。そして、大きな夢を持つ子供たちに、日本の事、世界の事を知って欲しいとも思った。私もこれから、「もっと知識を身に付け、視野を広げ、色々な事にチャレンジしていこう」と、改めて自分の夢を見つめ直し、モンゴルからパワーをもらった研修だった。

遠いようで意外と身近なモンゴル。夢と希望があふれている国だと感じた。これからもっと大きく成長し、私たち日本と協力し続ける事を願っている。